

事業継続マネジメントシステム (BCMS)を活用して、経営を強化する

株式会社 生出

BCP策定導入

☆2011年2月

東京都BCP策定支援事業に参加、「BCP導入プロジェクト」を発足させ、多摩直下地震を想定した、「事業継続のための計画と取組み」を策定
【多摩直下地震編】

☆2011年6月

BCPの実施・運用、教育・訓練、点検、見直しを含めた体制を整備した
「BCM(Business Continuity Management):事業継続管理」の運用を開始

☆2011年8月

同業社との「相互支援協定」締結、災害時の支援ネットワーク構築

☆2011年10月

サプライチェーン強化のため、サプライヤーとの連携開始

☆2012年6月

BS 25999マネジメントシステム認証取得

BCP策定の目的

経営の
質的向上

継続的に改革が進む組織風土づくり
意識とシステムの改革により経営の質的向上を図る

事業の
継続性

安心してお取引して頂ける会社づくり
事業の継続性を高め対外的な信頼を向上する
①被災後も中断させることなく事業を継続する
②中断しても短期間で事業を再開する

従業員の
生命安全

安心して働ける職場づくり
従業員の生命・安全を最優先に確保する

4-1 現在までの取組み 訓練計画

2013年度 上半期 BCP訓練計画表

2013年度 上半期 BCP訓練計画表							版 2	作成日 2013.1.8	作成 西嶋	承認 生出	
No.	実施項目	実施方法	実施 責任 者	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
1	BCP訓練	対策本部 要員育成	西島	業務継続(仮復旧)～本格復旧フェーズ							
2	避難誘導訓練 二次災害防止	避難後に各係 の訓練を実施	尾作 中山	緊急地震速報を受信により実施							
上	救護・応急 手当	AED取扱い、 止血、応急 手当方法等	西島		救護班は消防 署で訓練(3名)		防災士資格 取得(2名)				
4	初期消火	消防ポンプ 始動、放水 方法を学習 毎月1回放水	高木 森田	月初に定期放水 訓練	月初に定期放水 訓練	月初に定期放水 訓練	月初に定期放水 訓練	月初に定期放水 訓練		上半期	
5	緊急連絡と 安否確認	夜間または 休日にメール 送信で訓練	吉永	安否確認メール 内容の検討と実施 時期検討	営業						
6	受・発注訓練	受発注手順書 沿って対応	小高	前回の検証による 対応							
7	被害状況調査	被害状況チェッ クシートの運用 方法の確認	尾作								
8	製造機器の 稼働確認と 復旧作業	稼働及び動作 確認方法 保守業者の対 応状況確認	高木		稼働及び 確認方法 保守業者の連絡 方法確認			保守業者の連絡 方法確認			

[ポイント]
**BCP策定後から現在までの取組み
 は訓練と演習を重視している**

**年間計画という形でスケジュール化
 を図ったことで確実に実施した**

4-2 訓練と対策の改善サイクル

「計画 ⇒ 実行 ⇒ 検証 ⇒ 改善」のサイクル

演習 業務継続(仮復旧)～本格復旧フェーズ

2012.08.04

予定内容

日時：2012年8月25日 午後1時10分
 想定：多摩山下型地震発生 M7.3 最大震度6強 生田本社の震度は6弱

状況：本社・工場は概ね健全。一部では建物被害が生じているが重大な事象には至っていない。散乱物有り、右側建物に打突3名被災。直後停電有り。一般電話は故障により通話不能。公共交通機関はすべて不通。道路は、第1次35歳規制により、多摩川河原が60分後、電柱が倒壊を招く内傷の区域は全線閉鎖が断行禁止。

演習の目的

(1) 復旧活動手順書の実効性の検証
 問題点・課題を洗い出し、マニュアル、手順書の内容を点検

(2) 災害対策本部委員の育成
 実際に危機対応をおこなう委員の育成と危機時の実践対応能力の向上を図る

(3) 事業継続の確認
 策定したBCPが目標復旧レベルの範囲内で事業継続が出来るかどうかを確認する。

演習の対象範囲

対象となる事業：バックアップ事業
 対象となる拠点：本社工場及び保管倉庫
 対象となる部門：営業、包装設計、営業事務、生産管理、資材物流、製造、品証、総務

参加者
 生田、加藤、尾作、高木、吉木、中山、小高、西島



避難訓練手順書 日時:8月16日(火)15:15～ 予備日:5/17

火災発生場所：製造の熱線より出火 予備日：中山、西島

Flowchart showing evacuation procedures and safety protocols.

演習計画書

実地訓練

マニュアル、チェックリスト
手順書の実効性の検証

- 実効性の検証
- 行動の習熟
- 現実的な課題発見・対策

文書番号：4.2.2-9-01 文書名：教育実施報告書 版：3 頁：1/1

作成：2012年 3月 14日

項目	記入事項
教育名	訓練対応訓練(震度6強、水、火、安全避難訓練)
教育実施場所	BCP研修室
教育目的	従業員のBCMSの向上
教育内容	各種の役割の復習を上げる
実施日時	5/16(木)19:15～19:30
実施場所	本社
対象者	全従業員

実施後、実施内容について総括反省点



[時間経過別 行動基準 (震度6弱以上) (訓練用)]

Timeline from 0-30s to 10-15min showing action standards for different disaster phases.

Key points highlighted in yellow:

- 「地震発生からの時間経過別に何をすべきなのか」「それぞれの時間帯に何をしておくことが重要か」
- 「災害対策本部の役割」
- 「避難経路の確認」
- 「二次被害の発生防止」
- 「避難者の確認」
- 「外部不慣れ人への対応」

実施報告書
問題点、課題の抽出
解決策の検討

マニュアル、チェックリスト
手順書の修正

[ポイント]
 訓練の振り返りとこれに基づく対策書の修正

4-2 訓練と対策の改善サイクル



避難訓練(1)



避難訓練(2)



消防訓練(1)



消防訓練(2)



机上訓練



対策手順書の見直し



手動管理切替訓練



バックアップシステム復旧訓練



立川防災館での体験学習

4-3 活動原則 トップダウンとボトムアップ

経営トップ(トップダウン)

「本当に役に立つBCPを構築する」という本気を示す

従業員(ボトムアップ)

自主性を尊重し、前向きな意見や提案を取り入れる

全体活動

役割と責任、タイムリーな情報共有、コミュニケーション

活動ツール

見える化 ⇒ 次ページ

[ポイント]

トップ自身が理解を深め、
リーダーシップを取ること

4-4 従業員の意識を変える「見える化」



定期的な活動報告会議



事務局会議

BCP活動進捗管理板

BCP進捗管理板

初動対応手順書 復旧対応手順書

BCP方針、目的、目標

BCP策定プロジェクトチーム体制と役割

全体スケジュールと進捗状況

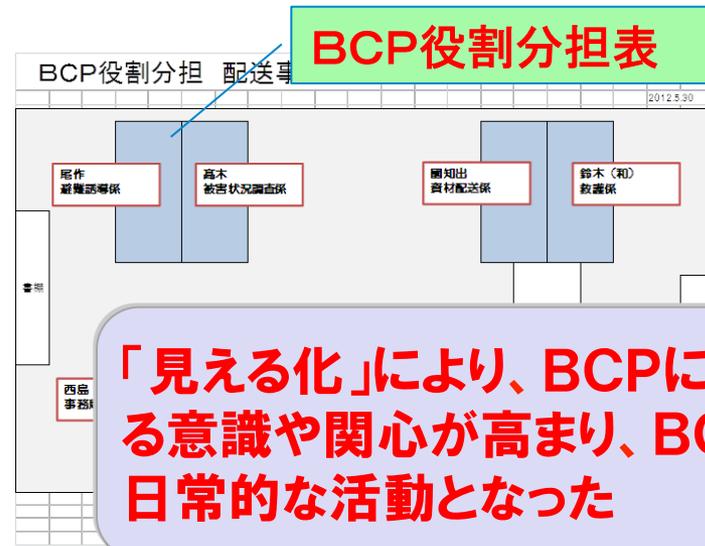
問題点に対する対策状況

訓練計画書

社内危険箇所が一目で分かるマップ

(全体活動の見える化)

4-4 「見える化」対策



4-9 その他の取組み 備蓄、防災用品の確保

職場での待機のための
の必需品の備蓄



防災キャビネット
救急工具の設置



4-10 その他の取組み 防災士の資格取得


救命技能認定証
(自動体外式除細動器業務従事者)
普通救命講習を修了し、救命技能を有することを認定します。

氏名 トダ レイ
認定番号 T120083609
東京消防庁 消防 総 監
認定年月日 平成24年 5月 15日




救命技能認定証
(自動体外式除細動器業務従事者)
普通救命講習を修了し、救命技能を有することを認定します。

氏名 ヨシカ サト
認定番号 T120083610
東京消防庁 消防 総 監
認定年月日 平成24年 5月 15日




救命技能認定証
(自動体外式除細動器業務従事者)
普通救命講習を修了し、救命技能を有することを認定します。

氏名 スズキ カスミ
認定番号 T120083608
東京消防庁 消防 総 監
認定年月日 平成24年 5月 15日




認定状
防災士登録055146号

加藤竜司 殿

あなたは、日本防災士機構が
定めた、防災士認証基準に適合
しているものと認定致しました。
よって、防災士として認証致します。

平成24年10月25日

特定非営利活動法人
日本防災士機構
会長 古川貞二郎
理事長 宮川知雄
認証委員会 委員長 伯野元彦



防災士 2名


認定状
防災士登録055147号

西島文則 殿

あなたは、日本防災士機構が
定めた、防災士認証基準に適合
しているものと認定致しました。
よって、防災士として認証致します。

平成24年10月25日

特定非営利活動法人
日本防災士機構
会長 古川貞二郎
理事長 宮川知雄
認証委員会 委員長 伯野元彦



救命技能認定者 5名

5-1 サプライチェーンの強化(調達)

重要サプライヤーの選定

サプライヤーの依存度把握

⇒調達品の特性と調達量から判断

サプライヤーの評価

評価の実施

⇒評価方法(訪問、アンケート調査)

サプライヤー 対策

BCM支援(評価結果のフィードバック)

⇒在庫水準の見直し



代替調達先の確保でなく

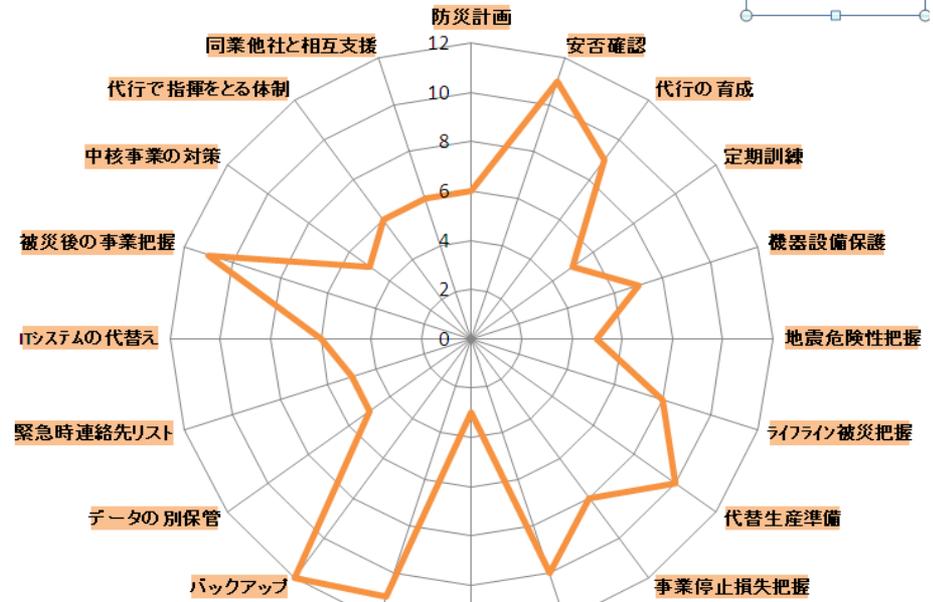
現在のサプライヤーとの関係強化を選択

5-3 BCP取組状況アンケート

BCP取組状況チェックリスト				
区分	設 問	はい	いいえ	不明
人的資源	地震や水害、火災などの緊急時に従業員の安全や健康を確保するための防災計画を作成していますか？			
	災害が勤務時間中、勤務時間外に起こった場合、あなたの会社は従業員と連絡を取り合うことができますか？			
	緊急時に必要な従業員が出社できない場合に、代行できる従業員を育成していますか？			
	定期的に避難訓練や応急救護、心肺蘇生法の訓練を実施していますか？			
物的資源 (モノ)	あなたの会社の建物は大規模地震に耐えることができますか？ 事業所内の機器、設備は保護されていますか？			
	あなたの会社周辺の地震や洪水の被害に関する危険性を把握していますか？			
	あなたの会社の建物、設備、ライフラインが被災した場合、被災状況をすぐに確認できますか？			
物的資源 (金)	あなたの会社の工場が操業できなくなる、仕入先からの原材料の納品がストップする場合に備えて、代替で生産や調達する手段を準備していますか？			
	1週間又は1ヶ月程度、事業を停止した際の損失を把握していますか？			
	災害用の損害保険に加入していますか？ 保険の範囲と支払条件を正確に理解していますか？			
	事前の災害対策や被災時復旧を目的とした融資制度を把握していますか？			
物的資源 (情報)	1ヶ月程度の事業運転資金に相当する額のキャッシュフローを確保していますか？			
	情報のコピー又はバックアップをとっていますか？			
	事務所以外の場所に情報のコピーまたはバックアップを保管していますか？			
体制等	主要顧客はじめ取引先や各種公共機関の連絡先リストを作成する等、緊急時に情報を発信・収集する手段を準備していますか？			
	操業に不可欠な IT機器システムが故障等で使用できない場合の代替方法がありますか？			
	あなたの会社が自然災害や人的災害に遭遇した場合の事業活動がどうなりそうか考えたことがありますか？			
	緊急事態に遭遇した場合、あなたの会社のどの事業に継続・復旧すべきかを考え、実際に何等かの対策を講じていますか？			
	社長が出張中だったり、負傷した場合、代わりの者がいる体制が整っていますか？			
	取引先及び同業社等と災害発生時の相互支援について検討していますか？			
	人的資源	物的資源 (モノ)	物的資源 (金)	
	はいの回答数	— / 4	— / 4	— / 4

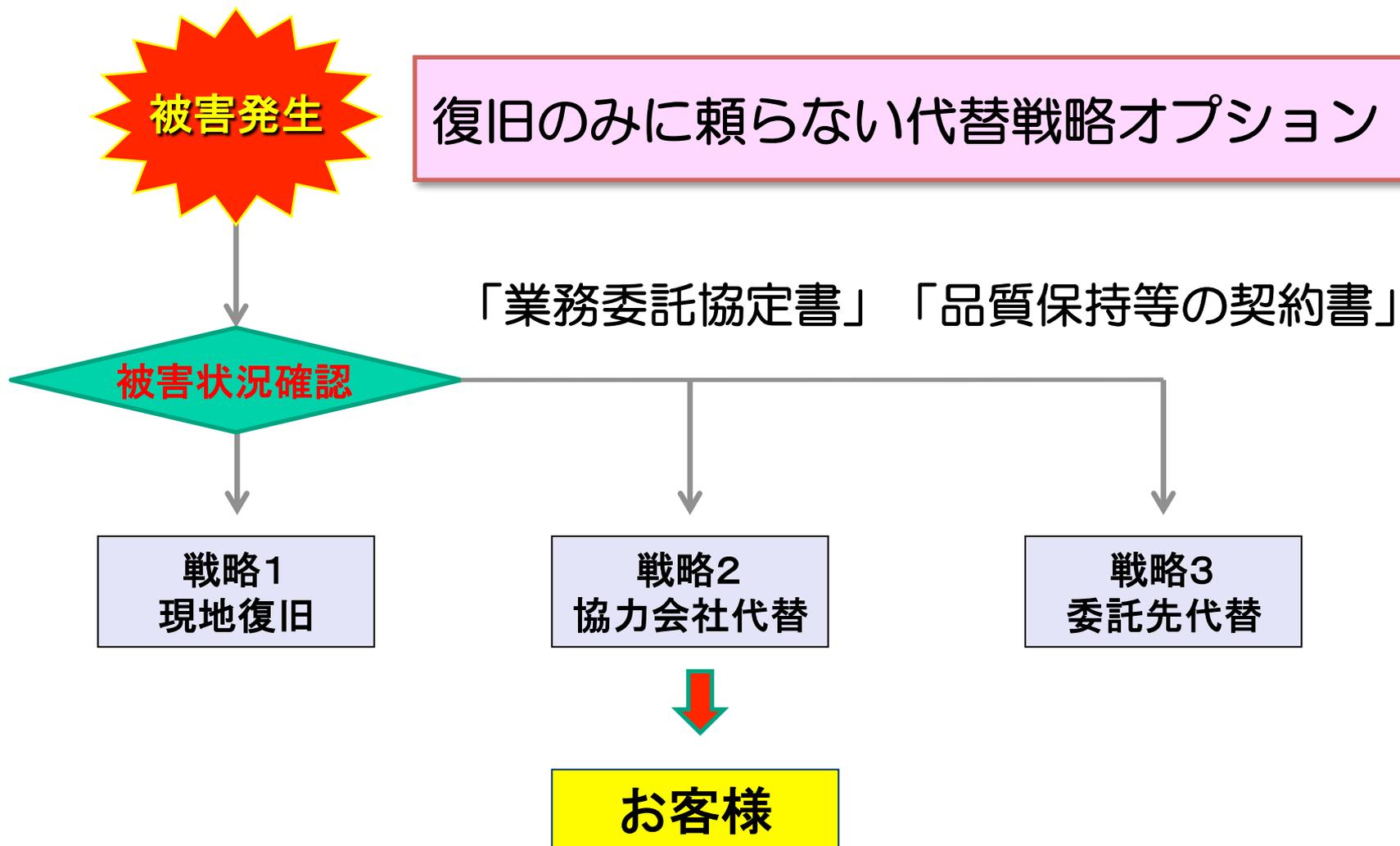
サプライヤーBCP取組状況

回答: 12社



BCP調査
アンケートや現地調査の実施によるBC能力評価
調査内容のフィードバック
経営トップや関係者と課題と対策、連携事項の確認

5-4 サプライチェーンの強化(代替生産)

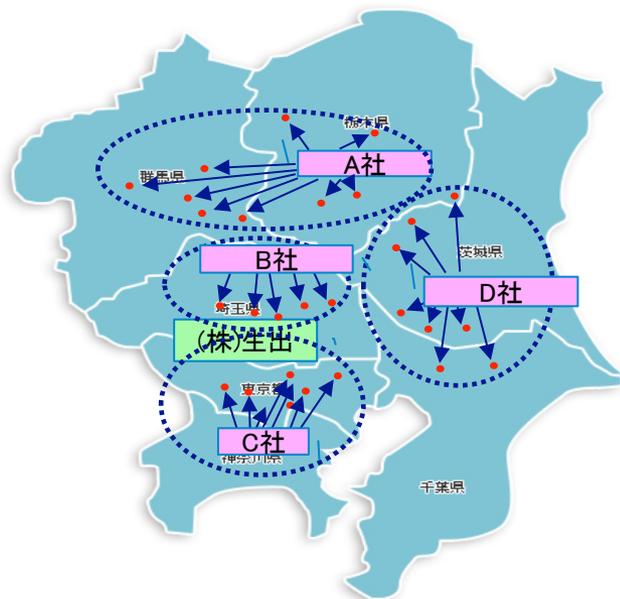


5-5 代替生産ネットワーク

生産活動が長期停止する状況を想定、提携先の工場に切り替え、優先的に供給しなければならない一部製品に限定して再開する。

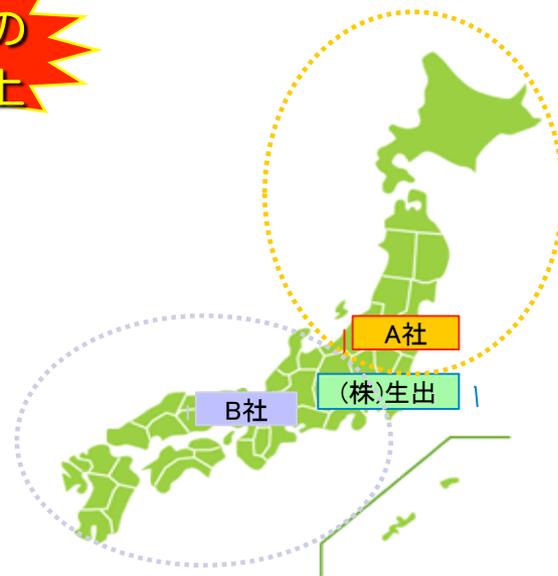
主力製品群ごとにネットワークを構築。関東圏内の同業4社との連携の他、東日本、西日本にそれぞれ1社ずつ代替生産のネットワークを構築しており、基本的には全国を網羅的にカバーしている。

＜関東圏における協力体制＞



＜日本全土をカバーする協力体制＞

製品供給の
継続性向上



5-6 サプライチェーン強化がもたらす効用

事業継続

資材の調達から生産・納品までをカバーできた

調達

調達先の日常のデリバリー向上に繋がる

代替生産

情報共有化が進み、補完関係の強化に繋がる

サプライチェーン強化

日常のサプライチェーン力の強化に繋がる

6-1 BCPの付加価値

■企業レベル

- BCPに取り組んでいる企業として認知度、取引上の評価の向上につながられる
- 顧客とのリレーション強化に結び付けることによって攻めの手段として活用できる。
- 同業社間の連携意識が高まる
- 地域貢献の意識が高まる

■マネジメントレベル

- 経営理念を共有することができる
- 従業員から会社への信頼感、安心感が高まる
- 会社所属意識、モチベーションが向上する
- 経営幹部の育成に効果的である

■現場レベル

- 現場責任者の育成に効果的である

6-2 経営戦略上の重要な切り口

潤滑油として機能

従業員と真剣に向き合う、取引先と本音で議論する

実態が明らかになる

現時点での取り組み姿勢、取り組み方、実力が明らかになる

意味のある課題解決

実態を踏まえた前向きな課題が立場を超えて話し合われる

レベルアップ

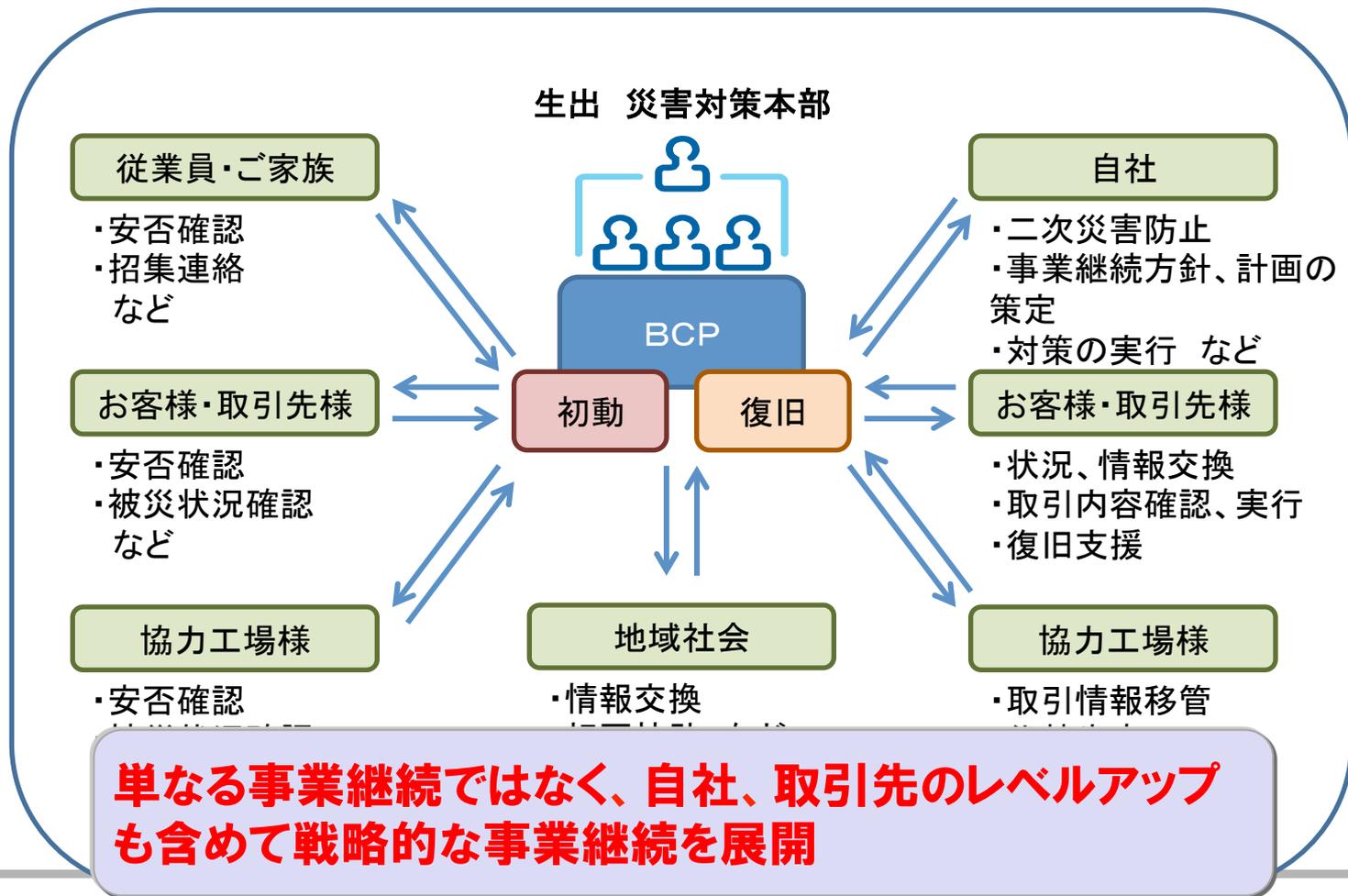
個人、組織、組織間ネットワークにおけるレベルアップに繋がる

経営の質的向上

社内外において付加価値をもたらし、経営の質的向上に繋がる

6-3 結びつきを深める戦略的マネジメントツール

災害対策本部を中心として、災害発生時、迅速にお客様、取引先様、協力工場様と連携を図り、事業の継続・早期復旧に向けて速やかに適切な対応を図ります。



6-4 経営戦略としてのBCP

事業継続能力を高めるツールとして「BCP」を取り入れ、そして、その実現のために「BCMS」を構築してきたが、今やBCMSは、当社にとってなくてはならない「経営の意思」そのものであり、経営戦略実現の経営ツール、企業競争力を高めるためのツールとなっている。

